

# Conditionanl Presuppositions and Modal Subordination

(条件的前提と様相従属)

畠山真一

本論文は、前提という古くから議論されてきた現象に対して形式的な取り扱いを与えることを目的とした研究である。前提には、単純前提と条件的前提の2種類があることが知られており、前提理論は、文が担う前提が、上の2種類の内のどちらであるかを正しく予測することが求められる。この要件を満たす前提理論としては、Heim (1983) を代表とする充足理論 (van Eijck, 1996; Kadmon, 2001) に、選択的含意 (preferential entailment) という概念を持ちこんだ Beaver (1999, 2001) が代表的である。本論文は、Beaver (1999, 2001) と同じく充足理論における「充足」という概念を利用し、さらに、前提と様相従属の類似性という観点から、より良い前提理論の構築を目指したものである。

第1章では、前提には単純前提と条件的前提の2種類があることを確認している。

続く、第2章では、先行研究において前提がどのように扱われてきているかを概観している。特に、「前提の照応理論」と「充足理論」の2つの現代的な前提理論が詳しく吟味され、これらの理論の持つ問題点が明らかにされている。前提の照応理論に関しては、条件的前提を扱うことができないという問題点が、充足理論に関しては、ある種の反事実条件文を用いて、「前提は、局所的文脈において充足されねばならない」という基本的仮定が強すぎるという問題点が指摘されている。

第3章では、本論文で提案される理論が依拠しているフレームワークである Frank (1996) による Annotated DRT (ADRT) を導入している。ADRT は、様相従属という現象を文脈指示子の束縛関係によって分析するという特質を持っており、前提を様相従属の観点から分析するという本論文の立場に合致している。

第4章で、本論文で提案される前提理論である「前提領域の照応理論」が提示されている。この理論の特質の一つは、前提を一種の様相命題と見なし、その量化の領域、すなわち、その前提が充足される文脈は照応的に先行文脈に依存すると仮定し、形式化が行なわれているという点である。言い換えれば、前提は、常に先行文脈に様相従属する命題と捉えられている。このように、先行文脈への照応的依存という仮定を取ることで、充足

理論において問題となっていた仮定である「前提は、局所的文脈において充足されねばならない」を弱めることが可能となり、充足理論が持つ重大な問題が回避されている。本理論のもう一つの特徴は、従来の前提理論と異なり、「先行文脈において前提は充足されねばならない」という充足条件が違反された場合、単純前提を生み出す「部分的調整」と条件的前提を生み出す「全体的調整」の2種類の操作により、その違反を回避するという手法が取られている。2種類の調整を考えることにより、「条件的前提を扱えない」という前提の照応理論の問題点が克服されている。

第5章では、残された課題について議論されており。特に、テンスを考慮しなければ、十分な予測力を持つ前提理論を構築することができないことが指摘されている。

## 文献

- Beaver, D. (1999). Presupposition Accommodation: A Plea for Common Sense. In L. S. Moss, J. Ginzburg, & M. de Rijke (eds.), *Logic, Language and Computation*, Vol. 2, pp. 21–44. Stanford: CSLI Publications.
- Beaver, D. (2001). *Presupposition and Assertion in Dynamic Semantics*. Stanford: CSLI Publications.
- van Eijck, J. (1996). Presupposition and Information Updating. In M. Kanazawa, C. Piñón, & H. Swart (eds.), *Quantifiers, Deduction, and Context*, No. 57 in CSLI Lecture Notes, pp. 87–110. Stanford: CSLI Publications.
- Frank, A. (1996). *Context Dependence in Modal Subordination*. Ph.D. thesis, Stuttgart: University of Stuttgart.
- Heim, I. (1983). On the Projection Problem for Presupposition. *Proceedings of the West Coast Conference on Formal Linguistics*, Vol. 2, pp. 114–126. Reprinted in Davis (1991): 397-405.
- Kadmon, N. (2001). *Formal Pragmatics*. Oxford: Blackwell.